

「孤独のグルメ」

上岡 実弥子

というテレビドラマをご存じでしょうか。
個人で輸入雑貨商を営む男“井之頭五郎（いのがし
ら ごろう）”は、商用でさまざまな街を訪れます。
そこでかならず

「そうだ、はらが、減った…」

と、空腹になり飲食店を探す。たまたま入った店で
想像以上の美味しい食事に出会う、というストーリ
ー。演じる松重豊さんが毎回大量のご馳走をモリモ
リ食べる姿は実に痛快。舞台となった飲食店はドラ
マ放映後に行列ができます。

「時間や社会にとらわれず、幸福に空腹を満たす
とき、つかの間、彼は自分勝手になり、自由になる。
誰にも邪魔されず、気をつかわずものを食べるとい
う孤高の行為。この行為こそが、現代人に平等に与
えられた、最高の癒やしと言えるのである」

出典：「孤独のグルメ」イントロダクション

<テレビ東京> [https://www.tv-tokyo.co.jp/
kodokunogurume2/intro/index.html](https://www.tv-tokyo.co.jp/kodokunogurume2/intro/index.html)

「孤独のグルメ」のヒットに、私は「ようやく時代
が我々に追いついた」とほくそ笑みました。

なぜなら、コロナ禍で『個食』『黙食』が推奨される
以前から、私、旅先で1人呑むのが大好きなのです。
出張時は「ど・こ・で・呑・も・う・か・な」とネ
ット検索。リストアップした居酒屋を現地で見て店
を決める。メニューは地物中心に「ビールのアテは」

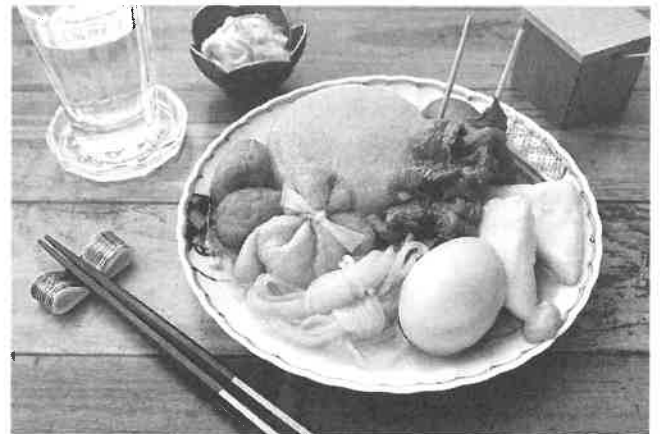
「日本酒の肴は」と組合せる。あれも食べたいしこ
れも呑みたいが胃袋は1つのみ。悩む！

1人呑みのマイルールは「何もしない」こと。ただ
呑んで食べてボーッとする。お酒と肴に全集中。ス
マホも見ない。しいて言えば何かを反芻したり反省
したり（笑）。

若山牧水の短歌「白玉の歯にしみとほる秋の夜の
酒はしづかに飲むべかりけり」ではないですが、た
まに1人まったり呑むのは楽しいです。

もし、伊那で「孤独のグルメ」のロケがあったら。
井之頭五郎は

「おたぐり、お葉漬、お多福豆、五平餅……伊那の
ソウルフード、いいじゃないか」と言ってくれるで
しょう。ただし彼はまったくの下戸。残念！（神奈川
県横浜市在住）



(株式会社キャラウィット代表取締役)

